

八幡平市



日本の文化と心に触れるタイ国タマサート大学の学生たち

日・タイの文化を通じた友好のかけ橋

10月20から29までの10日間、タイ国タマサート大学で日本語を専攻する学生18人が八幡平市を訪れ、日本の生活と文化を体験しました。

タマサート大学は、タイの首都バンコクにある国内では2番目に古い(1933年設立)歴史ある名門の大学。今回で10回目となる節目の交流事業です。
市ホストファミリーの会



交流会では学生とタイの古典舞踊を踊りました

員の家にホームステイをしながら、小学校や市博物館などを訪れ、日本の生活を体験しました。

23日に西根地区市民センターでホストファミリーや市民が参加して日・タイ文化交流会を開催。学生たちがタイの古典舞踊やトムヤムクンなどのタイ料理を披露。日本舞踊や和食などを通して市民と友好の輪を広げました。

27日には田頭公民館で茶道と華道を体験。初めて着る浴衣の華やかさに学生たちは大喜び。「わび」や「さび」といった心を学び、日本文化への理解を深めました。

市の芸術文化振興のため、市芸術文化協会と市教育委員会は、10月27日の安代地区を皮切りに、11月5日までの期間、西根、松尾、安代の3会場で平成18年度八幡平市芸術祭を開催しました。

絵画や書道、生け花、工芸品など多彩な作品が展示され、踊りなどのステージ発表が会場を盛り上げました。3地区それぞれの作品出展やステージ発表で相互交流も行われ、一体感を高めました。

秋は芸術でふれあいと交流を深めよう



華やかな浅沢神楽の権現舞(写真は安代会場)



丁寧に土をかけて苗木を作る参加者

特定非営利活動法人森びとプロジェクト委員会みちのく事務所は10月29日、松尾地区の県民の森で、第1回ふるさと森づくりを行いました。
遠くは北海道や茨城県など、県内外から約250人が参加。松尾鉱山跡地の森林再生を目指し、平館小学校の児童や関係者などが集めた地元のどんぐりを1万個のポットにまきました。参加者は、自然が回復するようお願いを込めて、丁寧に苗木を作りました。

どんぐりの苗木でふるさと森づくり